

第42回 The 42nd Annual Meeting of Japanese Dental Education Association



日本歯科医学教育学会

総会および学術大会

デジタル時代の歯科医学教育を考える



プログラム・抄録集

会期 2023年7月15日(土)～31日(月)

- LIVE配信：7月15日(土)・16日(日)
- オンデマンド配信：7月17日(月)～31日(月)

開催形式 完全WEB開催

大会長 高橋 裕 福岡歯科大学 学長

実行委員長 稲井 哲一朗 福岡歯科大学口腔歯学部 学生部長

準備委員長 米田 雅裕 福岡歯科大学口腔歯学部 教授

副準備委員長 森田 浩光 福岡歯科大学口腔歯学部 教授

<https://jdea42.secand.net/>

第42回日本歯科医学教育学会学術大会の開催にあたり — デジタル時代の歯科医学教育を考える —



第42回日本歯科医学教育学会学術大会

大会長 高橋 裕 福岡歯科大学 学長

このたび、第42回日本歯科医学教育学会学術大会を、福岡歯科大学が担当させていただきますことをたいへん光栄に存じます。

開催形式に関しては、新型コロナウイルス感染症が終息していない中、全国から各大学の教育に関して責任ある立場の先生方を、地方の福岡に集めて学術大会を開催していいものかどうか検討を重ねてまいりました。5月の連休明けからは新型コロナウイルス感染症が第5類に移行しましたが、その後に、再び流行が起こる可能性が考えられており、学術委員会ならびに理事会の先生方と協議した結果、今回もWEB開催となりました。

会期は、令和5年7月15日(土)～7月31日(月)の17日間とし、7月15日(土)、16日(日)はWEBにてライブ配信を、その後、7月17日(月)～7月31日(月)は、オンデマンド配信を行います。

本学術大会のテーマは、「デジタル時代の歯科医学教育を考える」とさせていただきました。近年、デジタル時代で社会は変化し、歯科医療においてもデジタルデンティストリーの進歩はめざましく、診療が大きく変化しようとしています。これからの日本の歯科医療を担っていく歯科大学・歯学部の学生に対してどのように教育をし、どのような基本的能力を身につけさせるのか、デジタル時代の歯科医学教育に関して、現時点で、より具体的に考える必要があると思われまます。

今回、わが国の歯科医学教育の最新の取り組みが発表される日本歯科医学教育学会にふさわしい企画を用意いたしました。特別講演1として、文部科学省高等教育局医学教育課企画官の堀岡伸彦先生に、「歯学教育におけるDXについて」の演題でご講演をいただきます。その他に、特別講演が2題、シンポジウムが2テーマで、一般演題は口演発表が5題、ポスター発表が38題になりました。

会期中に活発な討論が展開され、わが国の歯科医学教育のさらなる発展と学術交流の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、本学術大会の準備にあたり、学術委員会の先生方のご指導ならびにお力添えに対しまして、厚く御礼を申し上げます。本学術大会が参加者にとって実りあるものとなりますように祈念し、ご挨拶と致します。

日本歯科医学教育学会総会および学術大会担当校一覧

回	開催年		担当校	大会長
1	昭和 57	1982	大阪大学歯学部	河村 洋二郎
2	昭和 58	1983	大阪歯科大学	藤井 弁次
3	昭和 59	1984	東京歯科大学	関根 弘
4	昭和 60	1985	岩手医科大学歯学部	石川 富士郎
5	昭和 61	1986	九州大学歯学部	青野 正男
6	昭和 62	1987	神奈川歯科大学	長田 保
7	昭和 63	1988	東京医科歯科大学歯学部	小椋 秀亮
8	平成元	1989	東京歯科大学	高添 一郎
9	平成 2	1990	日本大学松戸歯学部	森本 基
10	平成 3	1991	日本歯科大学歯学部	古屋 英毅
11	平成 4	1992	福岡歯科大学	石木 哲夫
12	平成 5	1993	日本大学歯学部	斎藤 毅
13	平成 6	1994	愛知学院大学歯学部	平沼 謙二
14	平成 7	1995	明海大学歯学部	池田 克己
15	平成 8	1996	昭和大学歯学部	吉木 周作
16	平成 9	1997	東京歯科大学	石川 達也
17	平成 10	1998	日本歯科大学新潟歯学部	中原 泉
18	平成 11	1999	大阪歯科大学	佐川 寛典
19	平成 12	2000	北海道医療大学歯学部	松田 浩一
20	平成 13	2001	東京医科歯科大学大学院	江藤 一洋
21	平成 14	2002	鶴見大学歯学部	柳澤 慧二
22	平成 15	2003	長崎大学大学院	熱田 充
23	平成 16	2004	新潟大学大学院	山田 好秋
24	平成 17	2005	徳島大学大学院	三宅 洋一郎
25	平成 18	2006	東北大学大学院	渡辺 誠
26	平成 19	2007	朝日大学歯学部	藤下 昌己
27	平成 20	2008	日本大学松戸歯学部	牧村 正治
28	平成 21	2009	広島大学大学院	高田 隆
29	平成 22	2010	岩手医科大学歯学部	三浦 廣行
30	平成 23	2011	日本歯科大学生命歯学部	住友 雅人
31	平成 24	2012	岡山大学大学院	松尾 龍二
32	平成 25	2013	北海道大学大学院	鈴木 邦明
33	平成 26	2014	九州歯科大学	西原 達次
34	平成 27	2015	鹿児島大学大学院	松口 徹也
35	平成 28	2016	大阪大学大学院	天野 敦雄
36	平成 29	2017	松本歯科大学	長谷川 博雅
37	平成 30	2018	奥羽大学歯学部	大野 敬
38	令和元	2019	九州大学歯学研究院	古谷野 潔
39	令和 2	2020	神奈川歯科大学	櫻井 孝
40	令和 3	2021	日本大学歯学部	本田 和也
41	令和 4	2022	日本歯科大学新潟生命歯学部	藤井 一維
42	令和 5	2023	福岡歯科大学	高橋 裕
43	令和 6	2024	愛知学院大学歯学部	本田 雅規

(敬称略)

日 程 表

	7月15日(土) ライブ配信	7月16日(日) ライブ配信
10:00	10:00～10:30 開 会 式	
11:00	10:30～11:30 特別講演 1 歯学教育における DX について 座長：高橋 裕 演者：堀岡 伸彦	10:30～11:30 特別講演 2 臨床実習評価システムの開発について 座長：角 忠輝 演者：香川 豊宏
12:00	11:45～12:35 一般演題(口演) O-1～O-5 座長：内田 竜司	
13:00		12:30～14:30 特別講演 3 歯学系共用試験の現状と展望 座長：山本 一世 演者：斎藤 隆史 葛西 一貴 藤井 規孝
14:00	13:15～14:45 シンポジウム 1 デジタル・デンティストリーの臨床と教育 座長：城戸 寛史 シンポジスト：松崎 英津子 谷口 祐介 横尾 嘉宣	14:30～15:00 閉 会 式
15:00	15:00～16:30 シンポジウム 2 歯科医学教育白書2021年版にみる わが国の歯科医学教育の現状 座長：音琴 淳一 シンポジスト：沼部 幸博、角 忠輝 阿部 伸一、平塚 浩一 北島 佳代子、古地 美佳 白井 肇、大木 絵美 音琴 淳一	
16:00		
17:00		

プログラム

プログラム

特別講演 1

7月15日(土) 10:30～11:30

座長：高橋 裕(福岡歯科大学 学長)

歯学教育における DX について

堀岡 伸彦(文部科学省 高等教育局 医学教育課 企画官)

特別講演 2

7月16日(日) 10:30～11:30

座長：角 忠輝(長崎大学生命医科学域(歯学系) 総合歯科臨床教育学分野)

臨床実習評価システムの開発について

香川 豊宏(福岡歯科大学 診断・全身管理学講座 画像診断学分野 教授)

特別講演 3

7月16日(日) 12:30～14:30

座長：山本 一世(日本歯科医学教育学会 学術委員長/大阪歯科大学 歯学部 歯科保存学講座)

[歯学系共用試験の現状と展望]

1. 歯学系 CBT の現状と展望

斎藤 隆史(公益社団法人共用試験実施評価機構 歯学系 CBT 実施管理委員会 委員長/
北海道医療大学 歯学部 口腔機能修復・再建学系う蝕制御治療学分野 教授)

2. 歯学系 OSCE の現状と展望

葛西 一貴(日本大学 特任教授/
医療系大学間共用試験実施評価機構 歯学系 OSCE 実施管理委員会 委員長/
OSCE の在り方・評価者養成に係る調査・実証事業推進会議 座長)

3. 歯学系 PX の現状と今後について

藤井 規孝(公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構
歯学系 Post-CC PX 実施管理委員会 委員長)

[デジタル・デンティストリーの臨床と教育]

1. 歯内療法領域におけるデジタル・デンティストリーと教育

松崎 英津子

福岡歯科大学 口腔治療学講座 歯科保存学分野 教授/
福岡歯科大学 口腔医学研究センター/福岡歯科大学医科歯科総合病院 健診センター

2. 口腔インプラント学分野でのデジタルデンティストリーの臨床と教育について

谷口 祐介

福岡歯科大学 咬合修復学講座 口腔インプラント学分野

3. 福岡歯科大学口腔外科におけるデジタル・デンティストリー時代への試み

横尾 嘉宣

福岡歯科大学 顎顔面外科学講座 口腔外科学分野 助教

[歯科医学教育白書2021年版にみる
わが国の歯科医学教育の現状]

1. 日本歯科医学教育学会における歯科医学教育白書の歴史と意義

沼部 幸博

日本歯科医学教育学会 編集・広報委員会 委員長/
日本歯科大学 生命歯学部 歯周病学講座

2. 2021年版白書の構成と作成過程

角 忠輝

歯科医学教育白書2021年版 作成副部会長/長崎大学

3. 2021年版白書の特徴「コロナ禍における歯科医学教育」を中心に
0) 大学・大学院

阿部 伸一

歯科医学教育白書2021年版 作成部会/東京歯科大学

1) 基礎歯学(医学)教育

平塚 浩一

歯科医学教育白書2021年版 作成部会/日本大学松戸歯学部

2) 臨床歯学教育

北島 佳代子

日本歯科大学 新潟生命歯学部 歯科保存学第1講座

古地 美佳

歯科医学教育白書 2021年版 作成部会／日本大学歯学部

3) 特色ある教育

白井 肇

岡山大学病院 歯科・総合歯科部門

4. 歯科医学教育白書の将来とまとめ ～作成上の問題点など～

大木 絵美、音琴 淳一

歯科医学教育白書 2021年版 作成部会／松本歯科大学

一般演題 [口演]

7月15日(土) 11:45～12:35

座長：内田 竜司(福岡歯科大学教育支援・教学 IR 室)

O-1 第1学年 LBP (LTD based PBL) 受講による対人スキルの向上

○田谷 雄二¹⁾、長田 敬五²⁾、田中 とも子¹⁾、滑川 初枝¹⁾、横澤 茂¹⁾、田代 有美子¹⁾、堀江 哲郎¹⁾、栃木 啓佑¹⁾、永浦 まどか¹⁾、島村 直宏¹⁾、三枝 慶祐¹⁾、井出 良治¹⁾、千葉 忠成¹⁾、軍司 さおり¹⁾、豊田 健介¹⁾、石黒 一美¹⁾、岩原 香織¹⁾、石垣 佳希¹⁾、大津 光寛¹⁾、石田 鉄光¹⁾、五十嵐 勝¹⁾、沼部 幸博¹⁾

1) 日本歯科大学 生命歯学部 教育開発委員会、2) 日本歯科大学 新潟生命歯学部 初年次教育担当

O-2 歯学教育における美術作品鑑賞の可能性

～主体的・対話的に生きる力を育む新しい教育方法の提案～

○森永 康平¹⁾²⁾⁹⁾、河合 泰輔²⁾、石黒 一美³⁾、添野 雄一⁴⁾、前野 雅彦⁵⁾、豊田 健介⁶⁾、松野 智宣⁷⁾、五十嵐 勝⁸⁾

1) 獨協医科大学 教務委員会、2) 日本歯科大学 生命歯学部 歯科放射線学講座、
3) 日本歯科大学 生命歯学部 歯周病学講座、4) 日本歯科大学 生命歯学部 病理学講座、
5) 日本歯科大学 生命歯学部 接着歯科学講座、6) 日本歯科大学 生命歯学部 生物学、
7) 日本歯科大学 生命歯学部 口腔外科、8) 日本歯科大学 生命歯学部 歯科保存学講座、
9) ミルキク

O-3 AI 作問システムを活用した新しい教育環境の構築

○武藤 徳子¹⁾、山口 徹太郎²⁾、小林 優³⁾、副田 義樹⁴⁾、附田 孝仁¹⁾、石井 信之¹⁾、櫻井 孝⁵⁾

1) 神奈川歯科大学 歯学部 歯科保存学講座 歯内療法学分野、
2) 神奈川歯科大学 歯学部 歯科矯正学講座 歯科矯正学分野、
3) 神奈川歯科大学 歯学部 口腔外科学講座 口腔外科学分野、
4) 株式会社 エディアント、
5) 神奈川歯科大学 歯学部 画像診断学講座 画像診断学分野

O-4 歯科法医学(法歯学)に関する学部教育の実態調査第1報 2 大学歯学部 の状況を基にした予備検討

○岡 広子¹⁾²⁾、鈴木 敏彦¹⁾³⁾、大谷 真紀¹⁾⁴⁾、都築 民幸¹⁾⁵⁾、網干 博文¹⁾⁶⁾、
山田 良広¹⁾⁷⁾

- 1) 日本法歯科医学会、2) 広島大学大学院 医系科学研究科附属死因究明教育研究センター、
3) 東北大学大学院 歯学研究科 歯科法医学情報学分野、4) 秋田大学大学院 医学系研究科 法医学講座、
5) 日本歯科大学 生命歯学部 歯科法医学講座、6) 日本大学 歯学部 法医学講座、
7) 神奈川歯科大学 歯学部 社会歯科学系法医学講座 歯科法医学分野

O-5 キャリアパス説明会前後から見てきた歯学部生の大学院進学に関する考察

○園井 教裕¹⁾、松本 卓也²⁾、柳 文修¹⁾³⁾、大原 直也⁴⁾

- 1) 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科附属医療教育センター、
2) 岡山大学 学術研究院医歯薬学域 生体材料学分野、
3) 岡山大学 学術研究院医歯薬学域 応用情報歯学分野、
4) 岡山大学 学術研究院医歯薬学域 口腔微生物学分野

一般演題 [ポスター]

オンデマンド配信のみ

P-01 初年次学生に対する定期試験前マークシート説明会

○石黒 一美¹⁾²⁾、豊田 健介²⁾、赤間 亮一²⁾

- 1) 日本歯科大学 東京短期大学、2) 日本歯科大学 生命歯学部

P-02 多職種連携を考慮した歯科と栄養学科の合同実習と相互評価の取り組み

○大久保 真衣¹⁾、平田 創一郎²⁾、石塚 洋一³⁾、大澤 航介²⁾、川口 美喜子⁴⁾

- 1) 東京歯科大学 口腔健康科学講座 摂食嚥下リハビリテーション研究室、2) 東京歯科大学 社会歯科学講座、
3) 東京歯科大学 衛生学講座、4) 大妻女子大学 家政学部 食物学科管理栄養士専攻

P-03 コロナ禍で地域体験実習に代わる地域歯科教育への取り組み 第2報

○鎌田 ユミ子¹⁾、吉田 礼子¹⁾、松本 祐子¹⁾、作田 哲也¹⁾、大戸 敬之¹⁾、
岩下 洋一朗²⁾、田口 則宏¹⁾²⁾

- 1) 鹿児島大学病院 歯科総合診療部、2) 鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 歯学教育学分野

P-04 新規開講演習 Global Medical English II の概要および学生アンケート報告

○米田 雅裕¹⁾、坂上 竜資²⁾、池邊 哲郎³⁾、内田 竜司⁴⁾、稲井 哲一朗⁵⁾⁶⁾

- 1) 福岡歯科大学 総合歯科学講座 総合歯科学分野、2) 福岡歯科大学 口腔治療学講座 歯周病学分野、
3) 福岡歯科大学 口腔・顎顔面外科学講座 口腔外科学分野、4) 福岡歯科大学 教育支援・教学 IR 室、
5) 福岡歯科大学 生体構造学講座 機能構造学分野、6) 福岡歯科大学 学生部長

P-05 歯科医学教育における講義ノートの導入効果：その活用と試験成績の相関

○中塚 隆介、佐々木 由香、井内 拓磨、野崎 中成

- 大阪歯科大学 薬理学講座

P-06 アウトカム基盤型教育に基づくコンピテンシー評価システムの開発 —eポートフォリオの評価の可視化—

○岩下 洋一朗、田口 則宏、田松 裕一、西村 正宏

- 鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科

- P-07** 口腔解剖学教育における動画教材の有効性(第1報)
○松島 恭彦¹⁾、隈部 俊二¹⁾、仲川 雅人¹⁾、田中 順子²⁾、柏木 宏介²⁾、本田 義知¹⁾、川添 堯彬³⁾
1)大阪歯科大学 歯学部 口腔解剖学講座、2)大阪歯科大学 歯学部 有歯補綴咬合学講座、3)大阪歯科大学 学長
- P-08** 適正グローブサイズ選択とグローブ装着時の手指感覚を経験する初年次ハンドスキル実習の意義
○五十嵐(武内) 寛子¹⁾²⁾、石黒 一美¹⁾、村檜 悦子¹⁾、沼部 幸博¹⁾
1)日本歯科大学 生命歯学部 歯周病学講座、2)東京慈恵会医科大学 基盤研究施設
- P-09** 歯学部生を対象とした高齢者疑似体験学習における教育効果
○楠 尊行、眞砂 彩子、有川 香織、井上 太郎、奥野 健太郎、川本 章代、高橋 一也
大阪歯科大学 高齢者歯科学講座
- P-10** 臨床実習が終了した歯学部学生の高齢者への態度に関する調査
○豊下 祥史、菅 悠希、川西 克弥、越野 寿
北海道医療大学 歯学部 咬合再建補綴学分野
- P-11** 医療介護多職種連携コミュニケーションツールアプリを使用した模擬退院時カンファレンス実習の試み
○中島 純子、吉田 佳史、松浦 信幸
東京歯科大学 オーラルメディシン・病院歯科学講座
- P-12** 予防歯科臨床実習における地域医療体験と動画視聴の比較による教育効果の分析
○島津 篤、矢田部 尚子、内藤 麻利江、藤本 暁江、谷口 奈央
福岡歯科大学 口腔保健学講座
- P-13** 口腔内スキャナによる3D データと形成支援ソフトを用いて評価する支台歯形成実習の試み
○田中 順子¹⁾、窪田 努²⁾、谷本 啓彰³⁾、佐藤 正樹¹⁾、覺道 昌樹¹⁾、柏木 宏介¹⁾、橋本 典也²⁾、山本 一世³⁾
1)大阪歯科大学 歯学部 有歯補綴咬合学講座、2)大阪歯科大学 歯学部 歯科理工学講座、3)大阪歯科大学 歯学部 歯科保存学講座
- P-14** 東京医科歯科大学歯学部学生の包括臨床実習における初診時医療面接能力の経時的変化
○三木 裕仁¹⁾、則武 加奈子¹⁾、梅森 幸²⁾、礪波 健一²⁾、新田 浩²⁾
1)東京医科歯科大学病院 歯科総合診療科、2)東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 医歯学系専攻 全人的医療開発学講座 総合診療歯科学分野
- P-15** 歯科保険請求教育方略の検討
— 自学自習アプリに対する学生評価 —
○礪波 健一¹⁾、梅森 幸¹⁾、則武 加奈子²⁾、秀島 雅之¹⁾、海老原 新³⁾、曹 日丹⁴⁾、須永 昌代⁵⁾、木下 淳博⁵⁾、新田 浩¹⁾
1)東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 総合診療歯科学、2)東京医科歯科大学病院 歯科総合診療科、3)東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 歯髓生物学分野、4)東京医科歯科大学 統合教育機構 教学 IR 部門、5)東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 教育メディア開発学分野

P-16 歯学部生－歯科技工士連携と最終補綴装置の精度との関連について

○川西 克弥¹⁾²⁾、山中 大寛³⁾、富田 侑希¹⁾、村田 幸枝¹⁾、廣瀬 由紀人³⁾、菅 悠希²⁾、豊下 祥史²⁾、越智 守生³⁾、疋田 一洋⁴⁾、越野 寿²⁾、長澤 敏行¹⁾

- 1) 北海道医療大学 歯学部 臨床教育管理運営分野、
- 2) 北海道医療大学 歯学部 咬合再建補綴学分野、
- 3) 北海道医療大学 歯学部 クラウンブリッジ・インプラント補綴学分野、
- 4) 北海道医療大学 歯学部 デジタル歯科医学分野

P-17 ポストコロナ禍に向けた離島歯科医療実習で学生が得た学びの解明

○大戸 敬之¹⁾、松本 祐子¹⁾、鎌田 ユミ子¹⁾、志野 久美子¹⁾、岩下 洋一朗²⁾、作田 哲也¹⁾、吉田 礼子¹⁾、田口 則宏²⁾

- 1) 鹿児島大学病院 歯科総合診療部、2) 鹿児島大学 医歯学総合研究科 歯学教育学分野

P-18 歯学教育における歯科臨床手技自習施設の運用について

○鶴田 潤

東京医科歯科大学 統合教育機構

P-19 対話型鑑賞(VTS)は歯学教育に有効か？ パイロット研究

○仲谷 寛¹⁾、大澤 銀子¹⁾、永浦 まどか²⁾、岩田 洋³⁾

- 1) 日本歯科大学附属病院 総合診療科、2) 日本歯科大学 生命歯学部 歯科放射線学講座、
- 3) 日本歯科大学附属病院 放射線・病理診断科

P-20 チーム基盤型学習(TBL)における学生の同僚評価について

○葛城 啓彰

日本歯科大学 生命歯学部 共同利用研究センター

P-21 歯科衛生士および歯科技工士を目指す学生の就職に関する意識調査

○中塚 美智子¹⁾、神 光一郎¹⁾、尾形 祐己¹⁾、藤田 暁¹⁾、寺島 雅子¹⁾、米澤 美保子¹⁾、芦田 麗子¹⁾、濱島 淑恵²⁾

- 1) 大阪歯科大学 医療保健学部、2) 大阪公立大学 現代システム科学域 教育福祉学類

P-22 大阪歯科大学医療保健学部のクラウンブリッジ学におけるアクティブラーニングの5年間の取り組み

○楠本 哲次、首藤 崇裕、藤田 暁

大阪歯科大学 医療保健学部 口腔工学科

P-23 歯科衛生士教育の学校区分および学校定員別実体験レベル解析

○犬飼 順子¹⁾、合場 千佳子²⁾、吉田 直美³⁾、池田 亜紀子²⁾、石黒 梓⁴⁾、古川 絵理華¹⁾、沼部 幸博⁵⁾、品田 佳世子⁶⁾

- 1) 愛知学院大学 短期大学部 歯科衛生学科、2) 日本歯科大学 東京短期大学 歯科衛生学科、
- 3) 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 口腔健康教育学分野、4) 鶴見大学 短期大学部 歯科衛生科、
- 5) 日本歯科大学 生命歯学部 歯周病学講座、6) 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 口腔疾患予防学分野

P-24 歯科衛生士養成校における新たな診療補助実習の活用法

○谷本 啓彰¹⁾、奥村 瑛恵子¹⁾、細山 勝道²⁾、畑下 芳史²⁾、末瀬 一彦²⁾、山本 一世¹⁾

- 1) 大阪歯科大学 歯科保存学講座、2) 奈良歯科衛生士専門学校

P-25 和漢教育前の歯学部生における和漢に対する意識調査についての検討

○森 一将、嶋田 淳、山本 信治

明海大学 歯学部 病態診断治療学講座 口腔顎顔面外科学分野

- P-26** 福岡歯科大学「初診開始型臨床実習」における学生アンケート調査
 ○畠山 純子、佐藤(柳) 絢子、山本 繁、山田 和彦、米田 雅裕
 福岡歯科大学 口腔歯学部 総合歯科学講座 総合歯科学分野
- P-27** 歯科所見を用いた身元確認作業に関するデジタル教材の活用
 ○斉藤 久子¹⁾、勝村 聖子²⁾、岡 広子³⁾、小菅 栄子⁴⁾、山口 里恵⁵⁾、熊谷 章子⁶⁾
 1) 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 法歯学分野、2) 鶴見大学 歯学部 法医歯学教室、
 3) 広島大学大学院 医系科学研究科附属死因究明教育研究センター、4) 群馬県歯科医師会、
 5) 神奈川県歯科医師会、6) 岩手医科大学 法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野
- P-28** 東京医科歯科大学病院歯科医師臨床研修プログラムに新たに導入した研修内容
 ○則武 加奈子¹⁾、樺沢 勇司²⁾、濱 洋平³⁾、礪波 健一⁴⁾、海老原 新⁵⁾、秀島 雅之⁶⁾、
 梅森 幸⁴⁾、金森 ゆうな¹⁾、三木 裕仁¹⁾、城戸 大輔¹⁾、西山 暁⁴⁾、新田 浩⁴⁾
 1) 東京医科歯科大学病院 歯科総合診療科、2) 東京医科歯科大学大学院 健康支援口腔保健衛生学分野、
 3) 東京医科歯科大学大学院 高齢者歯科学分野、4) 東京医科歯科大学大学院 総合診療歯科学分野、
 5) 東京医科歯科大学大学院 歯髄生物学分野、6) 東京医科歯科大学病院 快眠歯科(いびき・無呼吸)外来
- P-29** 毎回の歯科診療時における血圧測定に関する研修歯科医の意識調査
 ○杉本 浩司¹⁾、鎌田 幸治¹⁾、野上 朋幸¹⁾、多田 浩晃²⁾、角 忠輝²⁾³⁾、鵜飼 孝¹⁾²⁾
 1) 長崎大学病院 口腔管理センター、2) 長崎大学病院 医療教育開発センター、
 3) 長崎大学 生命医科学域 総合歯科臨床教育学分野
- P-30** 研修歯科医が1年間の目標設定を考えるワークショップで抽出されたワードの解析
 ○鵜飼 孝¹⁾²⁾、鎌田 幸治¹⁾、野上 朋幸¹⁾、杉本 浩司¹⁾、多田 浩晃³⁾、角 忠輝²⁾³⁾
 1) 長崎大学病院 口腔管理センター、2) 長崎大学病院 医療教育開発センター、
 3) 長崎大学 生命医科学域 総合歯科臨床教育学分野
- P-31** デンタルミラーの位置がミラーテクニックを用いた切削技能に与える影響の検討
 ○佐藤 拓実¹⁾²⁾、長澤 伶³⁾、中村 太¹⁾、長谷川 真奈¹⁾、都野 さやか¹⁾、野村 みずき¹⁾、
 藤井 規孝¹⁾³⁾
 1) 新潟大学医歯学総合病院 歯科総合診療科、
 2) 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 口腔生命科学専攻歯周診断・再建学分野、
 3) 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 口腔生命科学専攻歯科臨床教育学分野
- P-32** フィンガーレストの位置がミラーテクニックを用いた切削技能に与える影響の検討
 ○長澤 伶¹⁾、佐藤 拓実²⁾³⁾、中村 太²⁾、長谷川 真奈²⁾、都野 さやか²⁾、野村 みずき²⁾、
 藤井 規孝¹⁾²⁾
 1) 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 口腔生命科学専攻 歯科臨床教育学分野、
 2) 新潟大学医歯学総合病院 歯科総合診療科、
 3) 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 口腔生命科学専攻 歯周診断・再建学分野
- P-33** 東京医科歯科大学病院研修歯科医による支台歯形成に対する自己評価と定量評価
 ○金森 ゆうな¹⁾、則武 加奈子¹⁾、土田 優美²⁾、岩城 麻衣子²⁾、金澤 学²⁾、新田 浩³⁾
 1) 東京医科歯科大学病院 歯科総合診療科、
 2) 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 口腔デジタルプロセス学分野、
 3) 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 総合診療歯科学分野
- P-34** 歯科臨床教育に利用可能なスマートグラスの要件
 ○関口 絢子¹⁾、曹 日丹²⁾、礪波 健一¹⁾、梅森 幸¹⁾、則武 加奈子²⁾、須永 昌代³⁾、
 木下 敦博³⁾、新田 浩¹⁾
 1) 東京医科歯科大学 総合診療歯科学分野、2) 東京医科歯科大学病院 歯科総合診療科、
 3) 東京医科歯科大学 教育メディア開発学分野

P-35 歯科衛生士に対する患者の認識度

○吉田 隆¹⁾、佐古 亮²⁾、柳澤 伸彰¹⁾、杉戸 博記³⁾⁴⁾、古澤 成博²⁾

1) 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 健康開発学科 口腔保健科学専攻、2) 東京歯科大学 歯内療法学講座、
3) 東京歯科大学 短期大学 歯科衛生学科、4) 東京歯科大学 保存修復学講座

P-36 禁煙指導・支援の卒前臨床教育の開発

ー全国教育機関フォローアップ調査結果から

○矢田部 尚子¹⁾、谷口 奈央¹⁾、埴岡 隆¹⁾²⁾、小島 美樹³⁾

1) 福岡歯科大学 口腔保健学講座、2) 宝塚医療大学 保健医療学部 口腔保健学科、
3) 梅花女子大学 看護保健学部 口腔保健学科

P-37 トピックモデルを適用した歯科専門用語リスト作成の試み

○高橋 留美、須田 拓基、前田 昌子

昭和大学 富士吉田教育部

P-38 初年次教育におけるアクティブラーニングを用いた生涯学習への準備

○松本 秀範¹⁾、西川 哲成¹⁾、益野 一哉¹⁾、王 宝禮¹⁾、田村 功¹⁾、藤原 眞一²⁾、
神田 龍平³⁾、稲本 雄之⁴⁾、前田 博史⁴⁾、田中 昭男⁵⁾、川添 堯彬⁶⁾

1) 大阪歯科大学 歯学部 歯科医学教育開発センター、2) 大阪歯科大学 歯学部化学教室、
3) 大阪歯科大学 歯学部先進医療研究センター、4) 大阪歯科大学 歯学部口腔治療学講座、
5) 大阪歯科大学 歯学部病理学室、6) 大阪歯科大学 学長

特別講演

特別講演 1

歯学教育における DX について

座長：高橋 裕 (福岡歯科大学 学長)

演者：堀岡 伸彦 (文部科学省 高等教育局 医学教育課 企画官)

特別講演 2

臨床実習評価システムの開発について

座長：角 忠輝 (長崎大学生命医科学域 (歯学系) 総合歯科臨床教育学分野)

演者：香川 豊宏 (福岡歯科大学 診断・全身管理学講座 画像診断学分野 教授)

特別講演 3

歯学系共用試験の現状と展望

座長：山本 一世 (日本歯科医学教育学会 学術委員長 / 大阪歯科大学 歯学部 歯科保存学講座)

1. 歯学系 CBT の現状と展望

演者：斎藤 隆史 (公益社団法人共用試験実施評価機構 歯学系 CBT 実施管理委員会 委員長
北海道医療大学 歯学部 口腔機能修復・再建学系う蝕制御治療学分野 教授)

2. 歯学系 OSCE の現状と展望

演者：葛西 一貴 (日本大学 特任教授 /
医療系大学間共用試験実施評価機構 歯学系 OSCE 実施管理委員会 委員長
OSCE の在り方・評価者養成に係る調査・実証事業推進会議 座長)

3. 歯学系 PX の現状と今後について

演者：藤井 規孝 (公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構
歯学系 Post-CC PX 実施管理委員会 委員長)



歯学教育における DX について

堀岡 伸彦

文部科学省 高等教育局 医学教育課 企画官

【略歴】

平成 17 年 4 月
東京都保健医療公社 多摩南部地域病院で初
期研修医として勤務

平成 19 年 5 月
厚生労働省入省 保険局医療課で診療報酬改
定を担当

平成 23 年 9 月
原子力災害対策本部被災者支援チーム医療班
で原子力災害被災者の被曝線量の推定などの
業務に従事

平成 24 年 12 月
厚生労働省 健康局疾病対策課課長補佐で難
病改革に従事

平成 25 年 4 月
厚生労働省から山梨県福祉保健部 健康増進
課長として出向

平成 27 年 4 月
山梨県福祉保健部参事・医務課長

平成 28 年 4 月
厚生労働省 医政局医事課 課長補佐

平成 29 年 8 月
厚生労働省 医政局医事課 医師養成等企画調
整室長

令和元年 8 月
厚生労働省 医政局総務課 保健医療技術調整官

令和 2 年 1 月～
厚生労働省 新型コロナ対策本部医療班併任
(武漢便帰国、ダイヤモンドプリンセス号対
応など)

令和 2 年 8 月
厚生労働省 医政局経済課 医療機器政策室長

令和 4 年 7 月
現職(文部科学省 出向)

社会医学に関する学歴、研究歴等：

平成 17 年 4 月
順天堂大学公衆衛生学教室 研究生

平成 25 年 4 月
山梨大学社会医学講座 非常勤講師
千葉科学大学 非常勤講師

平成 26 年 4 月
健康科学大学 客員教授

平成 28 年 3 月
医学博士号授与(順天堂大学)
浜松医科大学 医療法学講座 非常勤講師
順天堂大学 公衆衛生学講座 非常勤講師
社会医学系専門医・指導医

令和 4 年 12 月
広島大学 客員教授

医療分野での DX(デジタルトランスフォーメーション)を通じたサー
ビスの効率化・質の向上を実現することにより、国民の保健医療の向上を
図るとともに、最適な医療を実現するための基盤整備を推進するため、本
年政府として医療 DX 推進本部を立ち上げて国を挙げて DX を推進して
いるところである。

医療分野におけるデジタル化は医療機器の分野に最も強く影響を与えて
おり、今般政府が閣議決定した医療機器基本計画においてもプログラム
医療機器が重点分野の多くを占めている。

医学だけでなく、歯学教育においても DX の推進は喫緊の課題であり、
歯科医師を養成するための「モデル・コアカリキュラム」においても「情
報・科学技術を活かす能力」の項目が新設されている。

今後日本の研究の発展のためにも歯学教育における「情報・科学技術
を活かす能力」を持つ歯科医師の養成は不可欠である。



臨床実習評価システムの開発について

香川 豊宏

福岡歯科大学 診断・全身管理学講座 画像診断学分野 教授

【略歴】

- 平成4年3月
福岡歯科大学 歯学部 卒業
- 平成4年4月
福岡歯科大学 歯科放射線学講座
助手
- 平成22年4月
福岡歯科大学 診断・全身管理学講座
画像診断学分野 講師
- 平成25年11月
福岡歯科大学 診断・全身管理学講座
画像診断学分野 准教授
- 令和2年11月
福岡歯科大学 診断・全身管理学講座
画像診断学分野 教授

所属学会：

- 日本歯科放射線学会 理事
- 日本歯科放射線学会 専門医、指導医

臨床実習は学生が理論的な知識を現場の状況に適用する重要な機会である。そして、学生が臨床実習で習得した技術は適正かつ公平に評価されなければならない。そのため、臨床実習の評価には2020年度から歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験 (Post-Clinical Clerkship Performance Examination (Post-CC PX)) が、正式導入されている。

福岡歯科大学では、それに先駆けて、2009年から臨床実習の形成的評価として、臨床実習実績管理を、2013年から総括的評価として臨床実地試験を実施してきた。

臨床実習実績管理は実施した診療内容をステップごとに評価を行い、学生にフィードバックを行う。診療内容を「医療面接」「説明系」「検査系」「技能系」の4つのカテゴリーに分類し、各カテゴリーにおいて設定した行動目標ごとに評価項目を定めている。

また、臨床実地試験においては臨床実習Ⅱ期に「医療面接」「口内法エックス線撮影」「二球コンポジットレジン修復」「可撤式義歯の模型分析」の4項目について随時、評価を行った。評価項目は10種類を用意して毎年入れ替えて実施を行った。

臨床実習実績管理は現在まで引き続き行っている。臨床実地試験は2017年より臨床実地試験トライアルに移行し、本格実施に至っている。

これら評価の入力は当初、評価項目ごとの評価用紙を準備し、評価を記載後にコピーを取り、教員と学生がそれぞれ一部ずつ保管を行っていた。しかし、紙ベースの運用は管理が煩雑であり、学生ごとの進捗状況が把握できにくいという問題点が存在した。そのため、早急なデータベース化が望まれた。そこで、汎用のデータベース管理ソフトウェアであるファイルメーカー(クラリス・インターナショナル)を用いて評価管理システムの開発を行った。

ファイルメーカーはカスタムソリューションを作成し、特定の作業プロセスを自動化するのに役立つデータベース開発ツールである。Mac、Windows、iOSに加えて Web ブラウザでも動作するという汎用性を持ち、直感的なユーザーインターフェースを容易に作製することができる。また、カスタマイズ性にも優れており、ユーザーが特定のニーズに合わせてデータベースを設計できる。また、ユーザーやグループ単位でのアクセス権を細かく制御することができるため、学生や教員ごとに特定のレコードへのアクセス権や編集権、削除権を設定することが可能である。

開発したシステムの概要は次の通りである。評価システムのファイルはファイルメーカーサーバー上で稼働させ、教員は学内 LAN に接続されたコンピューターやタブレットの Web ブラウザを通じて学生の行動目標ごとの可否を入力する。学生は自身のタブレットなどで実績を確認することが可能となっている。本システムは学内 LAN からの接続のみ許可され、外部からの接続はできない仕様である。

本講演では、開発したシステムの概要と運用後に行った教員、学生のアンケート結果から本システムの有用性をお話する予定である。

一般演題

(口演)

第1学年 LBP (LTD based PBL) 受講による対人スキルの向上

Improving skills of personal relationships after LBP (LTD based PBL) practical training for first-year students

○田谷 雄二¹⁾、長田 敬五²⁾、田中 とも子¹⁾、滑川 初枝¹⁾、横澤 茂¹⁾、田代 有美子¹⁾、堀江 哲郎¹⁾、栃木 啓佑¹⁾、永浦 まどか¹⁾、島村 直宏¹⁾、三枝 慶祐¹⁾、井出 良治¹⁾、千葉 忠成¹⁾、軍司 さおり¹⁾、豊田 健介¹⁾、石黒 一美¹⁾、岩原 香織¹⁾、石垣 佳希¹⁾、大津 光寛¹⁾、石田 鉄光¹⁾、五十嵐 勝¹⁾、沼部 幸博¹⁾

1) 日本歯科大学 生命歯学部 教育開発委員会
2) 日本歯科大学 新潟生命歯学部 初年次教育担当

○Yuji TAYA¹⁾, Keigo OSADA²⁾, Tomoko TANAKA¹⁾, Hatsue NAMEKAWA¹⁾, Shigeru YOKOZAWA¹⁾, Yumiko TASHIRO¹⁾, Tetsuro HORIE¹⁾, Keisuke TOCHIGI¹⁾, Madoka NAGAURA¹⁾, Naohiro SHIMAMURA¹⁾, Keisuke SAEGUSA¹⁾, Ryouji IDE¹⁾, Tadashige CHIBA¹⁾, Saori GUNJI¹⁾, Kensuke TOYODA¹⁾, Hitomi ISHIGURO¹⁾, Kaori IWAHARA¹⁾, Yoshiki ISHIGAKI¹⁾, Mitsuhiro OHTSU¹⁾, Kanemitsu ISHIDA¹⁾, Masaru IGARASHI¹⁾, Yukihiko NUMABE¹⁾

1) Education Development Committee, The Nippon Dental University School of Life Dentistry at Tokyo
2) First-Year Experience, The Nippon Dental University School of Life Dentistry at Niigata

【目的】LBP (LTD based PBL; 長田2019) は協同学習の理念に基づいた LTD (Learning through discussion) と PBL テュートリアルを合わせた教育技法であり、第1学年後期に実施している。今回の発表では LBP 受講後に学生が感じた対人スキルに関する意識調査の解析結果を紹介する。

【対象と方法】2022年度日本歯科大学生命歯学部1年生138名を対象とした。LBP は1課題につき3週を1クールとし、1週目に LTD を、2～3週目に PBL テュートリアルをそれぞれ対面で実施した。最終週に学生の意識調査を行った。

【結果および考察】意識調査の解析から、「コミュニケーション力が向上したと思うか?」という設問では「はい」と答えた学生が91%に対して「いいえ」の回答はわずか1%(1名)であった。肯定的な回答の理由として「簡潔にわかりやすい説明」「傾聴」「初対面での対話」「積極的な発言」が以前よりできるようになったと答へ、否定した回答者も「人前で話ができるようになった」と述べている。「初対面でも対話ができるようになったか」という問いには82%の学生が「以前よりできるようになった」と回答した。「良い人間関係を構築する能力が向上したと思うか?」の設問では「はい」と答えた学生が93%で「いいえ」の回答は2%(3名)に止まった。「相手の意見を受容」「相手を尊重」「相手の考えを理解」「傾聴」のスキルが向上したという肯定的な意見が多く、否定した回答者も前向きな理由を述べている。「グループ員への配慮ができるようになったか」という問いには「以前よりできるようになった」と91%の学生が回答した。このように LBP 受講後、ほとんどの学生が受講前よりもコミュニケーションや良好な人間関係構築のスキルが向上したと感じており、この肯定的な結果は各課題の1週目で行う LTD での協同学習の効果によるものと考えられた。

【会員外共同演者】神尾 崇¹⁾

【参考文献】長田敬五, 協同と教育14, 117-129, 2019.

歯学教育における美術作品鑑賞の可能性 ～主体的・対話的に生きる力を育む 新しい教育方法の提案～

The Potential of Art Appreciation in Dental Education
～ A Proposal for a New Educational Method to Foster the Ability to Live Proactively and Dialogically ～

○森永 康平¹⁾²⁾⁹⁾、河合 泰輔²⁾、石黒 一美³⁾、添野 雄一⁴⁾、前野 雅彦⁵⁾、豊田 健介⁶⁾、松野 智宣⁷⁾、五十嵐 勝⁸⁾

1) 獨協医科大学 教務委員会
2) 日本歯科大学 生命歯学部 歯科放射線学講座
3) 日本歯科大学 生命歯学部 歯周病学講座
4) 日本歯科大学 生命歯学部 病理学講座
5) 日本歯科大学 生命歯学部 接着歯科学講座
6) 日本歯科大学 生命歯学部 生物学
7) 日本歯科大学 生命歯学部 口腔外科
8) 日本歯科大学 生命歯学部 歯科保存学講座
9) ミルク

○Kohei MORINAGA¹⁾²⁾⁹⁾, Taisuke KAWAI²⁾, Hitomi ISHIGURO³⁾, Yuuichi SOENO⁴⁾, Masahiko MAENO⁵⁾, Kensuke TOYODA⁶⁾, Tomonori MATSUNO⁷⁾, Masaru IGARASHI⁸⁾

1) Academic Affairs Committee, Dokkyo Medical University
2) Oral and Maxillofacial Radiology, The Nippon Dental University School of Life Dentistry at Tokyo, Tokyo Japan
3) Periodontology, The Nippon Dental University School of Life Dentistry at Tokyo, Tokyo Japan
4) Pathology, The Nippon Dental University School of Life Dentistry at Tokyo, Tokyo Japan
5) Adhesive Dentistry, The Nippon Dental University School of Life Dentistry at Tokyo, Tokyo Japan
6) Biology, The Nippon Dental University School of Life Dentistry at Tokyo, Tokyo Japan
7) Oral Surgery, The Nippon Dental University School of Life Dentistry at Tokyo, Tokyo Japan
8) Endodontics, The Nippon Dental University School of Life Dentistry at Tokyo, Tokyo Japan
9) Mirukiku

近年の美術作品に対する対話型鑑賞という鑑賞法が注目を集めている。本手法は作品に関する知識偏重のアート教育への疑問から1980年代に米ニューヨーク近代美術館(MoMA)で開発された、ファシリテーターにより参加者同士の対話により導かれる気付き新たな気付きや感じ方、意味づけにスポットを当てて進行していく鑑賞法であるが、国内の医療系の教育機関での導入や実践は殆ど行われていない。今回われわれはこの対話型鑑賞のデザインに注目し、診療や教育現場において課題として報告されやすい主体的な性質の強い言語力や観察力、コミュニケーション力の向上に繋がるという仮説を持ち、歯学部新2年次学生132名に対して90分3回の講義・鑑賞体験等を実施した。本演題では授業の企画・準備～実践までの経緯、および実施後の学生に見られた変化や感想等を報告する。

対話型鑑賞により育成が期待できる観察力・批判的思考力・言語能力・コミュニケーション能力は、これから先のVUCA時代を生きる学生の「生きる力の育成」にもつながると言われている。歯科医師がこれから直面しうる正解が容易に導けない、把握することも困難な複雑な問題や、長期の検討を要するような課題に対し、歯学教育のなかで何ができるのか。アート作品の鑑賞という、平素の教育とは視点、形式や題材も変えた体験のもつ潜在的な可能性について提示できれば幸いである。

第42回 日本歯科医学教育学会総会および学術大会
プログラム・抄録集

2023年7月発行

事務局：福岡歯科大学 総合歯科学講座 総合歯科学分野
〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1
E-mail：jdea42@fdcnnet.ac.jp

出版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>